

令和8年

1

月

佐伯高校

全員主役!

No.21 地域支援員だより



Topics 1 女子野球タウンフェスティバル

11月29日(土)・30日(日)、HIROHAI 佐伯総合スポーツ公園にて「女子野球タウンフェスティバル」が開催されました。佐伯高校は、29日の第1試合で花巻東高校(岩手県)と対戦しました。また第2試合では、サンブレイズと佐伯高校が合同チームを編成し、廿日市市女子野球選抜として再び花巻東高校に挑みました。結果はいずれも敗戦となりましたが、全国レベルの強豪校との試合は生徒たちにとって大きな経験となったと思います。また、探究学習で「小学生に野球の魅力を知ってもらうにはどうすれば良いか」という探究を行っている生徒は、津田商店街のブースにて「ストラックアウト体験コーナー」を出展しました。商店街の皆さまのお力をお借りしながら、来場者に競技の魅力を伝えることができました。



小瀬川の魚MAP作りを通して(3年)

生徒はこの1年、約10回にわたって釣りを行い、小瀬川の調査と釣りマップ作りに取り組んできました。実地調査を重ねる中で、「釣り初心者が、佐伯で食べられる魚を釣ることは簡単ではない」という気づきを得て、その理由を探るため、漁協の方へ直接聞き取りを行いました。その結果、釣りをより楽しんでもらうための提案として、「確実に魚を釣りたい人には釣り堀をすすめたい」「自然を満喫しながら釣りを楽しみたい人には吉和がおすすめ」という形でまとめました。あとは、卒業までに釣りMAPを完成させたいとのことです。



市民センター活性化のためのお化け屋敷(2年)

1年生のときの調査で、友和市民センターの利用がコロナ禍をきっかけに減少していること



とが分かった生徒たちは、施設の活性化を目的に「お化け屋敷」を企画しました。イベント当日は、親子連れや県外からの来場者も訪れ、来場者数は304名、1時間待ちが出るほどの盛況となりました。地域との交流が生まれたことは大きな成果である一方で、「お化け屋敷を実施すること自体が目標になってしまった」と振り返りました。次回は目的を見失わないようにしたいとし、現在は「ぶち文化祭」の企画を進めているとのことです。

10代を対象としたスキンケア方法(2年)

中学生の頃にニキビで悩んだ経験から、肌について悩んでいる中高生たちの参考になればと、生徒たちは探究を始めました。スキンケアの正しい方法を学ぶため、ビューティアドバイザーの方に佐伯高校へ来校していただき、実際にスキンケアを体験。その体験を通して適切なケアや肌トラブルが起きた際の対処方法が分かったそうです。一方で、行動に移すまでに時間がかかってしまった点を反省として挙げ、今後は計画的に取り組みたいと振り返っていました。また地域の方からは、「スキンケアも大切だが、最終的には食事が重要。外側からのケアだけでなく、内側からのアプローチも考えてみては」といったアドバイスも寄せられました。



小学生に野球の魅力を知ってもらうにはどうすれば良いか(3年)

生徒は、近年、男女を問わず野球人口が減少していることに課題意識をもち、「小学生に野球の魅力を知ってもらいたい」と考えて活動に取り組みました。探究活動の初めは、具体的に何をすればよいか分からず悩んだものの、テーマを変えずに取り組み続けたことで、2回の実践につなげることができたといいます。活動を通して、子どもたちが楽しそうにゲームに取り組む様子から、「野球の魅力を知ってもらうことができたと感じた」と振り返りました。来年以降はこの活動を1年生が引き継いでくれるとのことです。



女子硬式野球部のHPの外部化(3年)

野球部のホームページが古く、最新情報が十分に発信できていないことから、生徒は新たにホームページを作成したいと考えました。また、ホームページの収益化にも挑戦してみたいという思いがあつたそうです。掲載する内容については、野球部のインスタグラムを活用し、「どのような情報が欲しいか」をアンケートで集めました。収益化については、見やすいページを維持するため、広告を掲載するのではなく、寄付を募る形を選んだとのことです。生徒が作成した野球部のホームページには、個人情報に配慮した選手の紹介や、これまでに取り上げていただいたメディアのURLなどがまとめられており、試合観戦や応援の際に、より一層楽しめる内容となっています。公開に向けては、まだいくつかの課題



が残っているようですが、観覧できる日はそう遠くないと感じました。

角寿司について知ろう(1年)

生徒たちは、さいきせせらぎ園の皆さんにご協力いただき、佐伯の郷土料理である角寿司づくりに取り組みました。1回目の試作では伝統的な角寿司を作り、2回目には生徒たちオリジナルの角寿司レシピを考案しました。発表の冒頭で「角寿司を知っている人」と問いかけると、会場で手を挙げた人は半数以下でした。探究に参加した生徒の中にも、角寿司を初めて食べた生徒があり、「食べてみるととてもおいしかった」と話していました。生徒たちは、まだ知られていない郷土料理を普及させることで、そのおいしさを伝え、佐伯の郷土文化を守りたいと発表しました。



外国人に広島の観光地の魅力について知ってもらう(2年)

歴史と英語が好きという思いから、社会に貢献できる探究として、広島の観光パンフレット作りに取り組んだ生徒たちがいました。多くの観光



パンフレットは、歴史や人物、建物などの情報に偏りがちであると感じ、さまざまな視点を盛り込んだ広島の観光パンフレットを作りたいと考えたそうです。原爆ドームや平和記念資料館、厳島神社を実際に訪れ、オリジナルの紹介文を作成しました。翻訳機を活用しながら英語に翻訳し、公営塾の英語の先生に相談しつつ作成したことです。また来場者からは、「地域のパンフレットも英語版を作ってほしい」といった意見も寄せられました。

女性アスリートのためのトレーニング・コーチングの方法の開発(3年)

小学校1年生の頃から毎日野球に取り組んできた生徒は、腰椎分離症を発症した経験をもとに、探究を始めました。女性に合ったトレーニングを行えば、けがを減らすことができると知り、自身で女性向けのトレーニング方法を考え、中学生や小学生を対象にトレーニングの実践も行いました。その中で、「好きなことを仕事にする」ことの大変さを感じたそうです。それでも、たとえ難しくても挑戦し続けたいと語り、将来は理学療法士として女性アスリートを支えたいという目標を発表しました。



SAEKI QUEST

成 果 発 表 会

12月17日(水)、佐伯高校の探究活動「SAEKI QUEST」の成果発表会が行われました。生徒たちはこの1年間、それぞれが関心をもったテーマについて、試行錯誤を重ねながら探究活動に取り組んできました。中には、3年生として2年間同じテーマを探究し続けてきた生徒もいます。当日は、校内で行われた予選会を勝ち抜いた8組が、探究の集大成として地域の皆さまの前で発表を行いました。発表後には、地域の方々から多くの質問や感想が寄せられ、生徒にとって大きな励みとなるとともに、佐伯高校生の学びや挑戦を地域の皆さんに知っていただく、たいへん有意義な機会となりました。